

令和 4 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4 年間の目標 (令和 2 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	生徒の学力向上のため、個々の学習ニーズに対応した「確かな学力」定着を図る環境づくりを推進し、知識の習得と思考力の育成のバランスに留意した学習指導の開発や授業改善に取り組む。	○新学習指導要領に基づいた生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 ○生徒による授業評価の項目に、8「私は、授業の課題・予習・復習などを家庭学習で取り組むことができた」を加え、評価ポイント 3.3 以上を目指す。	○授業見学週間や研究授業のテーマを明確にするとともに、「教科ごとの取り組みがつながる工夫」や「生徒による授業評価をふまえた改善」に取り組む。 ○家庭学習と授業の連動による効果的な学習を、各教科で具体的に実践するよう働きかけを行う。	○生徒による授業評価から授業研究活動の成果が読み取れたか。 ○生徒による授業評価の項目 8 の評価ポイントが 3.3 以上であること、また自由記述欄で家庭学習に取り組む姿勢が読みとれたか。
2	生徒指導 ・支援	学習活動以外のさまざまな場面をとらえ、生徒の自己・他者理解力を深化させるとともに、自主的に取り組む態度を身に付けるよう支援する。	○規則正しい生活習慣の確立と規範意識を高めることと、様々な成果を収めることとの関連性を理解させる。 ○安心して学校生活を送れる環境づくりを目指し、教育相談体制の確立を図る。 ○瀬谷高祭など学校行事の生徒主体による運営を実現させる。 ○取り組む生徒を維持することから部活動の活性化を目指す。	○強制的な指導ではなく、理解を促し、自主的にルールを守る姿勢を支援する。 ○生徒情報の共有とケース会議を定期的開催し、登校が困難な生徒を支援する。 ○交通社会の一員として自覚を促す交通安全教育を強化する。 ○生徒による行事運営組織に対し、集団活動での個人の役割や課題、目標などを常に問う。 ○部活動加入率を定期的に把握しながら、部長会などを通じて部員定着の働きかけを行う。	○定期的な生徒への働きかけにより、継続中の頭髮指導対象者以外の、新たな指導対象者が 0 人であったか。 ○問題行動調査で把握した長期欠席者が前年より減少したか。 ○地域からの苦情件数を記録し、減少させられたか。 ○行事後の調査で、自主的に取り組めた生徒が 70%を超えたか。 ○年度末の調査で、部活動加入率 70%台を維持できたか。
3	進路指導 ・支援	生徒一人ひとりにキャリアイメージを明確化させるとともに、生徒の自己実現達成を支援する。	○生徒一人ひとりの多様な進路ニーズに対応した支援体制、および関係行事等のさらなる充実を図り、進路に対する意識の向上を促す。	○進学希望者の支援の早期化・計画化を図る。看護医療など特定分野希望者へのきめ細かな支援を行うと共に、多様な受験方法への対応強化を図る。 ○生徒・保護者対象の説明会等のイベントについて、対面・オンラインを使い分けた柔軟な実施方法により、生徒個々のモチベーションアップ、および進路へのイメージの明確化を図る。	○各支援内容ではコロナ禍において、生徒の多様なニーズに対応する支援内容が企画されているか。 ○説明会などの内容について、立案・実施が適切になされているか。アンケートなどによる反応を探ると共に、特にオンライン説明会の場合は、アクセス数が全体の半分以上となるように情宣、働きかけに努める。

4	地域等との協働	生徒が地域の中での自分の役割に気づき、ともに支えあって生きていく喜びを体得し、豊かな人間性を獲得するよう支援する。	<p>○生徒に地域貢献活動等への積極的な参加を促し、自分の役割への気づきを促進し、自己肯定感を高める。</p> <p>○より良い社会の実現に向け生徒一人ひとりが主体的に生きる上で必要な能力と態度を養う。</p>	<p>○近隣の幼稚園や養護学校との協働、ハマロード・サポーター活動、募金や手話活動等の支援を通して、生徒の自発的な態度を育成する。</p> <p>○教育課程研究開発校「シチズンシップ教育に係る研究」指定校として、より良い社会の実現に向け生徒一人ひとりが主体的に生きる上で必要な能力と態度を養うための指導計画や教材等の研究開発に取り組む。</p>	<p>○地域貢献活動やボランティア活動等 10 回以上実施し、生徒の意識の向上を図り、自発的な態度を育成できたか。</p> <p>○教育課程研究開発校「シチズンシップ教育に係る研究」指定校として、1 年間を見通した計画書と 3 年間を見通した計画書を策定することができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	<p>○県民の教育を担うという責任を自覚し、職務を遂行するとともに、事故不祥事防止に努める。</p> <p>○学校現場に即した実効性のある防災教育・防災訓練を実施する。</p>	<p>○各種説明会、ホームページやリーフレット等、高校体験プログラムを通し県民や入学希望者に本校の魅力特色を広報する。</p> <p>○入学者選抜では根拠や通知等に沿い、事故防止意識を高く保ち、適切な手順での業務遂行を徹底する。</p> <p>○校務用及び学習者用回線を適切に管理し、事故不祥事防止に努める。</p> <p>②年 2 回の防災訓練，年 1 回の防災講話を前例にとらわれず、生徒が主体的に動き考える場を提供する。</p>	<p>○説明会を県民 320 人以上に、本校ホームページ更新を 20 回以上、高校体験プログラム 5 本以上を実施し、本校の魅力特色を広く県民や入学希望者に広報できたか。</p> <p>○入学者選抜業務での事故を 0 に抑えることができたか。</p> <p>○校務用回線端末を 50 台以上、学習者用アクセスポイント 30 機以上、授業用 ICT 化用生徒識別 950 アカウント以上、生徒持込端末不正接続監視用識別 950 台以上の機器にかかる事故を防止する取組みができたか。</p> <p>②前年度の反省を活かし、より質の高い訓練、講話が実施できたか。</p>